

平成30(2018)年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業 地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 基山町 (佐賀県)

1. 当該地域の情報 (2018年6月現在)

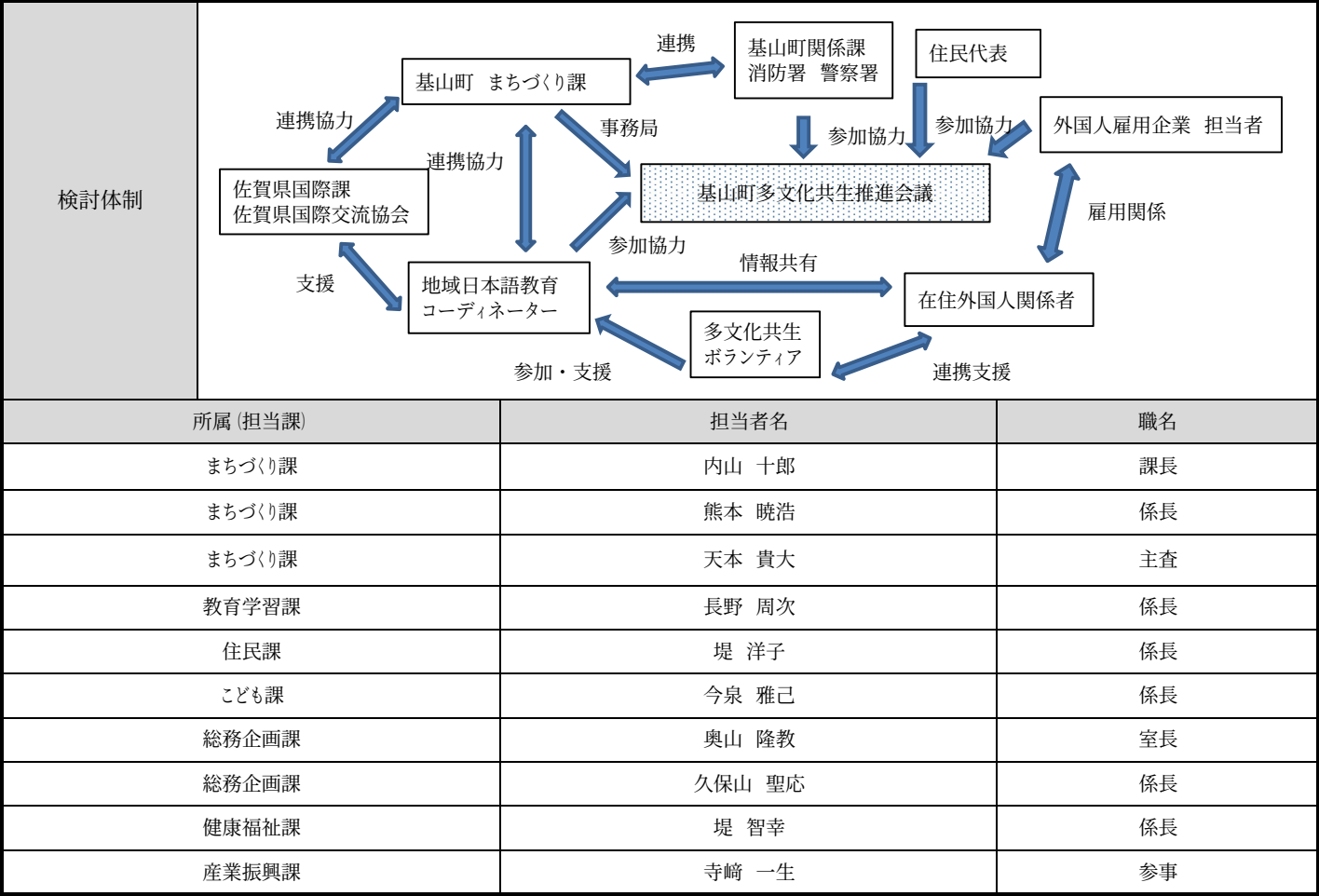
地域の課題	外国人登録者数の比率は、平成29年12月末現在で町人口の0.9%と県平均の0.7%と比べても高く、今後も増加傾向にある。 その内訳としては、技能実習生が多く、続いて留学生や日本人配偶者となっている。 課題として、外国人がその地域や職場でのコミュニケーション不足、地域の習慣や文化を教える人がいないことによるゴミだし問題や交通ルール、病気のこと等での意見のすれ違いがある。
在住外国人数 外国人比率	0.99% (平成30年6月末・外国人登録者数172人／総人口17,318人)
在留外国人の 状況	【主な国籍】 ベトナム、中国、フィリピン、韓国、スリランカ、アメリカ、タイ 【在留資格】 技能実習生、永住者、特別永住者、日本人配偶者等、留学生、定住者 【滞在年数・在留期間などの状況】 技能実習生 1年から3年(最長5年)、永住権のある日本人配偶者等、永住・在日韓国人等、特別永住・永住権のない日本人配偶者等、定住者
在住外国人の 日本語教育の現状	日本語教室は、町内の多文化共生ボランティア団体が、基山町まちづくり基金事業の支援を受け実施しているが、平成29年度実施のアンケート結果から町内在住外国人のニーズに応えきれていないと言えず、今後は生活者としての外国人をより支援できるようオール基山での支援体制づくりが必要である。

2. 事業の内容

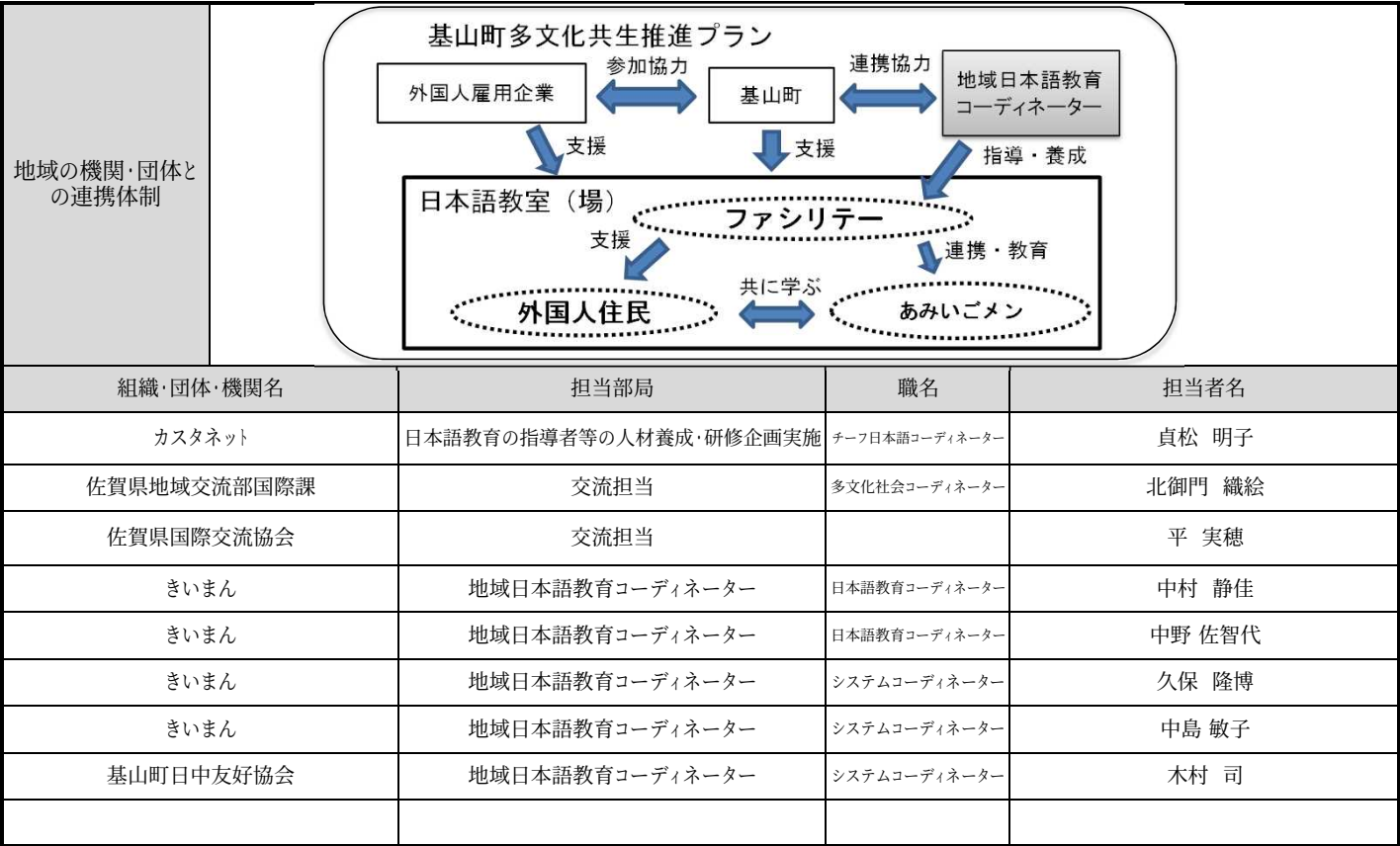
本プログラム取組年数	2 年目			
事業の目的	・基山町在住の日本人が外国人に対して、コミュニケーションが取れないことや意見のすれ違い、生活習慣の違いによる偏見を解消すると共に、相互理解を促進し、多文化共生社会の推進を図る。 ・生活ルールや防災情報など日本語の理解が困難な方では取得困難な情報を日本人と外国人、外国人同士など縦横様々な連携を図り情報を共有できるようになるため、町内の日本語教室を情報収集や発信の場、交流の場としたい。			
事業の概要	2年目の基本的な事業目的は、「オール基山での多文化共生社会の実現に向けた体制づくり」とし、大きく3つに分けて取り組む。 1つ目は、基山町主催の日本語教室「きやま・くらしの日本語ひろば」通称、「あみいご」の試験的な実施と本格始動に向け、教室の支援者や担い手の育成として、現在、多文化共生ボランティアで外国人に対する日本語教育支援に取り組んでいる団体「ほんごきいまん」の協力を得て、多文化共生に理解関心を持つ支援者の増加を図るため、教育や交流担当者養成講座を実施する。 具体的には、支援者育成①として、多文化共生の理念や心構えを習得し、外国人と「やさしい日本語」でコミュニケーションできる支援者を養成する。支援者育成②として、支援者育成①の中から教室の企画、運営など実行に携わる支援者を養成する。 2つ目は、オール基山で考える体制づくりとして、外国人雇用企業担当者や町民代表者、基山庁内関係課担当者、地域日本語教育コーディネーターの代表者が一同に会し、基山町多文化共生推進会議(仮称)を開催し、情報交換と課題の共有及び各種施策に関する連携を図る場として定期開催していきます。 3つ目は、基山町における日本語教育支援の継続性を確保すること、多文化共生社会の実現に向けた施策の指針となる「基山町多文化共生推進プラン」の策定に向けた検討を行います。			
事業の対象期間	平成30年4月～平成31年3月			
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)	・在住外国人、在住日本人、企業担当者を対象としたアンケートを実施、多文化共生に対するニーズ調査と分析。 ・多文化共生シンポジウムを開催し、まちづくりとしての多文化共生社会の実現に向けた町民意識の喚起。			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	貞松 明子	カスタネット	—	チーフ日本語コーディネーター
	中村 静佳	きいまん	代表	日本語教育コーディネーター
	久保 隆博	きいまん	会計	システムコーディネーター
	中島 敏子	きいまん	監査	システムコーディネーター
	中野 佐智代	きいまん	副代表	日本語教育コーディネーター
	木村 司	基山地区日中友好協会	幹事	システムコーディネーター
	熊本 暁浩	基山町役場	係長	チーフシステムコーディネーター
	天本 貴大	基山町役場	主査	システムコーディネーター
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	尾崎 明人	名古屋外国語大学	シニアアドバイザー	継続 新規(2年目)
	堀 永乃	グローバル人財サポート浜松	アドバイザー	継続 新規(2年目)
	吉田 聖子	川崎市国際交流協会	アドバイザー	継続 新規(2年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
2018年 4月	システムコーディネーター会議 (4/3) (4/9) 第1回アドバイザー会議 (4/21～22)	コーディネーターの役割分担検討 事業計画検討	★平成30年度事業計画案の検討 基山町の目指す日本語教室の検討 役割分担の検討 基山町多文化共生推進プラン案の検討 基山町多文化共生推進会議の検討 試験的な日本語教室開催の検討 先進地視察の検討
2018年 5月	コーディネーター会議 (5/1)	きやまこくさいフェスタ検討 日本人支援者募集内容の検討	
2018年 6月	コーディネーター会議 (6/8) (6/22)	先進地視察事前検討 きやまこくさいフェスタ検討 多文化共生社会を考える懇談会の検討 試験的な日本語教室開催スケジュール検討 多文化共生推進プラン素案検討	
2018年 7月	コーディネーター会議 (7/5) (7/20) 先進地視察 飯田・駒ヶ根市 (7/13～14) 第1回基山町における多文化共生社会を考える懇談会 (7/24)	先進地視察時の質問事項等検討 きやまこくさいフェスタ関連機関調整検討 多文化共生社会を考える懇談会の検討 事業計画書最終調整 先進地視察後の情報共有	★先進地視察随行
2018年 8月	コーディネーター会議 (8/7) (8/29) 第1回きやまこくさいフェスタ (8/19)	きやまこくさいフェスタ役割分担確認及び 打ち合わせ あみいごメンバーオリエンテーション役割 確認及び打ち合わせ	
2018年 9月	日本語教室日本人支援者 (あみいごメンバー) オリエンテーション (9/2) コーディネーター会議 (9/23) (9/25)	試験的な日本語教室①の内容と役割分 担確認	
2018年 10月	試験的な日本語教室①自己紹介等 (10/14) コーディネーター会議 (10/14) 日本語教育コーディネーター会議 (10/24) (10/29)	日本語教室の役割分担検討 多文化共生推進プラン策定役割分担検 討 教室以外の交流イベント検討 試験的な日本語教室②打ち合わせ及び 関係機関との調整	★日本語教室の役割分担検 討 多文化共生推進プラン策定役 割分担検討 教室以外の交流イベント検討
2018年 11月	コーディネーター会議 (11/10) 試験的な日本語教室②交通マナー等 (11/11)	試験的な日本語教室②の内容と役割分 担確認	
2018年 12月			
2019年 1月	アドバイザーとあみいごメンバーとの研修会 (1/13) システムコーディネーター会議 (1/17) コーディネーター会議 (1/21) 第3回アドバイザー会議 (1/26～27) 試験的な日本語教室③日本の行事 (1/27)	平成31年度事業提案内容検討 多文化共生推進プラン策定スケジュール等 の検討 第2回基山町における多文化共生社会を考 える懇談会に向けた検討 試験的な日本語教室③打ち合わせ及び関 係機関との調整	★ あみいごメンバーとの意見交換 平成31年度事業提案書の検討 基山町の目指す日本語教室の検討 役割分担の検討 基山町多文化共生推進プラン案の検討 基山町多文化共生推進会議の検討 試験的な日本語教室開催の検討 先進地視察の検討
2019年 2月	コーディネーター会議 (2/4) コーディネーターとあみいごメンバーによる第1回あみいご勉強会 (2/10) 第2回基山町における多文化共生社会を考える懇談会 (2/20)	あみいごメンバー含めた次年度以降の教 室運営検討 (あみいご勉強会) に向けた 協議	
2019年 3月	コーディネーター会議 (3/1)	来年度の教室の進め方の検討 来年度の教室のテーマの検討 コーディネーターの担当区割の検討	

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称		あみいご					
外国人参加者について		[国籍] 中国8名, ベトナム2名, インドネシア1名、メキシコ1名、ジャマイカ1名 [属性] 技能実習生や日本人の配偶者等が主な対象			参加者数 (内 外国人数)		受講者13名(13名) 支援者29名(1名) 日本語教室コーディネーター3名 システムコーディネーター5名
開催時間数		総時間 4. 5時間			内訳 1. 5時間 × 3回		
目標		基山で暮らす日本人と外国人がお互いを理解し、共に活躍するための橋渡し					
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2018年10月14日(日) 10:00～11:30	1.5	第9区公民館	8	友達をつくろう	・自己紹介(アイスブレイク) ・自己紹介ポスター作成 ・発表 ・リクエストカード記載	コーディネーター6名 あみいごメンバー19名
2	2018年11月11日(日) 10:00～11:30	1.5	第9区公民館	4	交通ルールと防犯	・自己紹介(アイスブレイク) ・交通マナー教室(鳥栖警察署担当者) ・対話活動 ・自国との相違点を発表	コーディネーター5名 あみいごメンバー16名
3	2019年1月27日(日) 10:00～11:30	1.5	第9区公民館	7	日本の年間行事と 来年度の活動計画	・日本の行事を知ろう！ ・自国の行事を知らせよう！ ・来年度みんなでやってみたいこと	コーディネーター7名 あみいごメンバー15名
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							

【主な活動】



試験的な日本語教室①自己紹介等(10/14)の風景



試験的な日本語教室②交通マナー等(11/11)の風景



試験的な日本語教室③(1/27)の風景

(3) その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
基山町における多文化共生社会を考える懇談会	第1回 2018年7月24日 第2回 2019年2月20日	【趣旨】 多文化共生施策を推進し、誰もが住みやすく、活躍できる社会の実現を目指すため、「オール基山」での検討体制づくりとして、懇談会形式での情報交換や町の施策の方向性の検討、連携協力体制の構築を目的に開催した。 【参加者】 外国人雇用企業担当者、外国人支援団体関係者、警察・消防署職員、佐賀県国際課担当職員、佐賀県国際交流協会担当者、基山町担当課職員、町民代表者、外国人代表者 【内容】 第1回 各団体の自己紹介と連携強化、課題の共有、基山町の施策等周知(参加者21名) 第2回 今年度施策成果報告、「やさしい日本語」講座、意見交換(参加者24名)
先進地視察	2018年7月13日～14日	【趣旨】 先進地域での日本語教室の取り組みを見学、担当者等からの説明を受けることで、基山町における教室の在り方を模索するため。 【参加者】 コーディネーター4名 【内容】 ①長野県飯田市「わいわいサロン」 長野県飯田市で開催されている教室の運営に携わっている関係者に、教室の運営についての話を聞いた。 ②長野県駒ヶ根市「地球市民の会inこまがね」 長野県駒ヶ根市で開催されている教室に実際に参加させてもらい、教室運営の参考にするとともに町内で日本語教室を開催する際のイメージを作った。
きやまこくさいフェスタ	2018年8月19日	【趣旨】 基山町在住の日本人に対するコミュニケーションが取れないことや意見のすれ違い、生活習慣の違いによる外国人に対しての偏見を解消するとともに相互理解を促進し、多文化共生社会の推進を図る。 また、試験的日本語教室の運営に協力していただく「あみいごメンバー登録」の告知を行い一般の方に教室を知ってもらうきっかけとすることを目的とした。 【参加者】 約 外国人40名・日本人40名(コーディネーター、地元SUN3サロンの皆さん含む) 【内容】 ①わんこそうめん大会 ②世界のお茶を楽しむカフェ&世界の民族衣装展示 ③〇×ゲーム ④かき氷 ⑤外国人スピーチ大会
あみいご勉強会	第1回 2018年9月2日 第2回 2019年2月10日	【趣旨】 コーディネーターとあみいごメンバーの垣根なく、今後の「あみいご」開催に向けた体制整備を目的として開催した。 【参加者】 基山町コーディネーター、あみいごメンバー 【内容】 第1回 あみいごメンバーのオリエンテーリング(参加者29名) 第2回 これまでのコーディネーターの役割説明、来年度の「あみいご」活動検討会(参加者コーディネーター7名、あみいごメンバー9名)

【主な活動】



第1回基山町における多文化共生社会を考える懇談会(7/24)の風景



先進地視察 飯田・駒ヶ根市(7/13～14)の教室風景



第1回きやまこくさいフェスタ(8/19) わんこそうめん早食い大会の風景(中央が松田町長、他全員外国人)

5. 今年度事業全体について

進捗状況	今年度予定した活動の柱は、3本である。 1つ目は、基山町主催の日本語教室「きやま・くらしの日本語ひろば」通称、「あみいご」の試験的な実施と本格始動に向け、教室の支援者や担い手の育成という点では、あみいごメンバー登録は約30名と町の規模からは、十分な数といえるが、養成という点では、教室での支援に留まり、運営側への巻き込みという点では、不十分であった。 2つ目は、オール基山で考える体制づくりとして、外国人雇用企業担当者や町民代表者、基山庁内関係課担当者、地域日本語教育コーディネーターの代表者が一同に会し、「基山町多文化共生推進会議」からより縛りを持たせず「基山町における多文化共生社会を考える懇談会」として開催し、情報交換と課題の共有及び各種施策に関する連携を図る場として定期開催することができた。 3つ目は、基山町における日本語教育支援の継続性を確保すること、多文化共生社会の実現に向けた施策の指針となる「基山町多文化共生推進プラン」の策定に向けた検討であったが、策定の基礎となる各課への目標施策調査段階に留まった。
成果	(1)『きやま・くらしの日本語ひろば(通称:あみいご)』試験的な教室に向けた協力者(あみいごメンバー)が約30名集うことができた。 (2)多文化共生社会の実現に向けた懇談会を今年度2回開催、企業や官公庁、住民代表など情報交換や連携の土台を構築することができた。 (3)第1回きやま こくさいフェスタを開催し、外国人約40名、日本人約40名(第3区SUN3サロン含む)参加、多文化共生に関する意識の高揚が図られた。 (4)あみいごメンバー養成講座を開催し、教室の必要性を学び、支援の輪を広げることができた。 (5)試験的な日本語教室(通称・あみいご)全3回(4回予定し台風で1回中止)開催、本格開催に向けた基礎を構築できた。
地域の関係者との連携による効果	①地元企業や官公庁、住民代表など『オール基山』で、多文化共生社会の実現に向けた懇談会を開催することにより、地域内の関係機関相互の情報交換や連携に効果がある。 ②教室支援者として、あみいごメンバーが教室で外国人と交流することで、メンバー以外の町民への在住外国人に対する意識改革の波及が効果が期待できる。 ③こくさいフェスタは、そうめんの準備やかき氷、お茶の接待など地域住民団体の方々に依頼したことで、自然と外国人との交流が生まれ、相互理解の輪を広げる効果がある。
コーディネーターの主な活動	①ニーズの調査(4.5H) ②体制整備のための調整(7.0H) ③人材育成のための調整(23.0H) ④日本語教室開設及び運営のための調整(29.5H) ⑤教材作成に向けた調整(3.0H) ⑥その他(H) (具体的な内容:)
アドバイザーの主な助言	1 町の持つ資源・人材の活用⇒魅力ある町づくり…外国人支援・多文化共生の推進への助言 2 町の概要・視察から、今後の活動についての助言(拠点場所、人材確保、日本語教室での実施内容) 3 外国人交流、イベントに対しての助言⇒今後の展開、交流が広がっていく展開方法 4 外国人ニーズの調査についての助言 5 日本語教室の進め方…ボランティアの発掘、確保、教材となる資源への助言 6 あみいごメンバーとの意見交換会での助言
今後の課題	①継続した活動としていくためのマネジメント能力の養成と、事業を主体的に動かすことのできる人材の育成。 ②町が多文化共生社会の実現に向け、日本語教育を中心として、様々な施策に取り組むことに対する外国人住民を含めた町民の理解と支援。 ③「基山町多文化共生推進プラン」を中心に、町の多文化共生施策を進めるには、策定過程における町議会や町民、関係機関との認識の共有化と施策の方向性、役割分担を明確にする必要。
今後の予定	①平成31年度の日本語教室は、月2回を基本に開催する。 ・教室活動をコーディネーター5人で回せるように担当する。 ・教室運営に興味のあるあみいごメンバーに、各開催日ごとに教室運営の補助として携わってもらう。 ②コーディネーターの担当区割を行い、個々のコーディネーターと各区長やその区域内居住外国人と繋がりをつくることで、今後の地域内での連絡体制や連携を強化する。 ・中村(5区・7区・11区)、中野(10区・12区・13区)、中島(3区・8区・9区)、久保(6区・14区・15区・16区・17区)、木村(1区・2区・4区) ③「基山町多文化共生推進プラン」の素案を作成し、基山町における多文化共生社会を考える懇談会や町議会での意見交換、町民ワークショップ、パブリック・コメントを実施する。

本件担当 : 基山町役場まちづくり課協働推進係